

新種アンモナイト

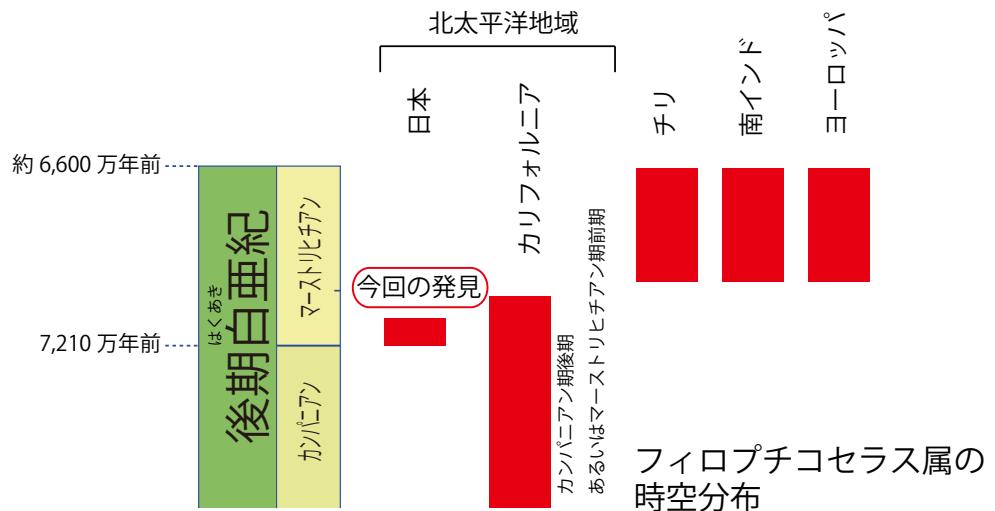
フィロプチコセラス・ホリタイを発表 日本および北西太平洋地域から初めての フィロプチコセラス属の産出記録

むかわ町穂別在住の堀田良幸氏が2008年ごろに平取町で採集し、穂別博物館に2011年に寄贈されたアンモナイトが日本および北西太平洋地域で未確認だったフィロプチコセラス属であり、またこれが同属の新種であることが明らかになりました。この研究成果を重田康成先生（国立科学博物館 研究主幹）と西村智弘による共同研究として日本古生物学会欧文誌パレオントロジカル・リサーチ (Paleontological Research) に論文発表しました。新種の学名は発見者の堀田良幸氏に献名し、フィロプチコセラス・ホリタイ *Phylloptychoceras horitai* としました（ホリタイの「-イ」 *horitai* 「-i」は、男性に献名する場合の学名の接尾語）。

今回発見されたフィロプチコセラス・ホリタイはマーストリヒチアン（マーストリヒチアン）期最前期（約7,200万年前）に生息していたものです。これまでに知られていたフィロプチコセラス属アンモナイトの最も古い化石記録は、カリフォルニアから産したカンパニアン期後期あるいはマーストリヒチアン期前期のもので、これ以外はすべてそれよりも新しいマーストリヒチアン期後期のものでした。今回発見した新種はマーストリヒチアン期最前期のものであることから、カリフォルニア産のものとあわせて、北太平洋地域のものがもっとも産出時期が早いことになります。このことから、フィロプチコセラス属が北太平洋地域起源であると考えられます。（学芸員 西村智弘）



2 cm



ミニ展示 新種 白亜紀異常巻きアンモナイト フィロプチコセラス・ホリタイ

7/2 (火) ～ 9/29 (日) 穂別博物館特別展示室

普及講演会 8/31 (土)

「穂別のアンモナイト研究 (13:00～13:30)」

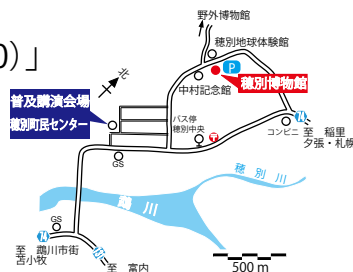
「フィロプチコセラス・ホリタイの話 (13:30～14:00)」

講演 西村智弘 (当館 学芸員)

8/31 (土) 13:00～14:00

むかわ町穂別町民センター

(むかわ町穂別総合支所隣接) 入場無料 定員 50 名



普及講演会 (6/2) を実施しました。



重田康成先生

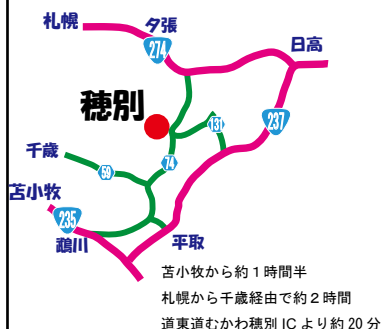


西村智弘

新種のアンモナイト ゴードリセラス・ホベツエンゼの発表に関連した普及講演会を開催しました。当初は西村のみが講演する予定でしたが、重田康成先生 (国立科学博物館 研究主幹) がアンモナイトの調査で北海道に来られる時期と重なったこともあって、講演をお願いしました。重田先生には新種発表の意義と調査・研究の手順について丁寧にお話していただきました。西村は北海道と穂別のアンモナイト研究史について話しました。むかわ町穂別在住の方を中心に、北は富良野市から南は熊本市から来られた 21 名の方々が聴講されました。

7/16 (火) ～ 22 (月) は町民無料入館日 (7/20 開館記念日関連) です。

[アクセス]



開館時間 9:30～17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小～高校生: 100 円

大人 300 円

団体 / 小～高校生: 50 円

大人 200 円

※団体は 10 人以上 ※小学生未満は無料

休館日

2013 年

7 月・8 月は
無休です